

「おにぎりアクション」社会に貢献

世界の子どもにも学校給食を



室蘭・海星学院高校(堺俊光校長)で17日、「世界食料デー1月間」の取り組みとして、おにぎりの写真を投稿するとアフリカ・アジアの子どもたちに学校給食が届く「おにぎりアクション」が行われ、1年生62人が社会に貢献した。

日本では2008年(平成20年)から、16日の世界食料デーにちなみ、10月を「世界食料デー1月間」としている。おにぎりアクションはNPO法人TABLE FOR TWO(東京)が提唱する取り組みで、ツイッターやインスタグラムなどの

自分で作ったおにぎりを手に記念写真を納める
海星学院高の生徒たち

食料デー1月間で室蘭・海星学院高

この日同校では、食事を通して世界の食料格差を学ぶ「ハンガーバンケット」も実施。生徒は不平等な状況を疑似体験することで自分たちの境遇や世界の現状について考えていた。(北川誠)

会員制交流サイト(SNS)に「#OnigiriAction」のハッシュタグを付けて投稿すると、写真1枚につき協賛企業から約5食分の学校給食に相当する金額が寄付される仕組みだ。

生徒は、味の素冷凍食品(東京)から提供された「おにぎり丸」を入れたおにぎりを作った後、全員笑顔で記念写真に納まった。授業終了後も個人でおにぎりを撮影し、SNSに投稿する様子も見られた。